

■＜参考資料＞中小企業診断士第2次試験の出題の趣旨

中小企業診断協会が公表している出題の趣旨です。

平成23年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅰ」の出題の趣旨

第1問（配点40点）

A社の主力事業である医療品業界の環境変化と事業強化に関して、基本的理解力と分析力を問う問題である。

（設問1）

一般家庭用医療品の営業活動と医家向け医療品の営業活動の違いを問うことによって、顧客に対するA社の組織的対応の違いについて基本的理解力を問う問題である。

（設問2）

医家向け市場といった新しい市場へのA社の参入が、どのような背景・条件の下で行われたのかについて分析する能力を問う問題である。

第2問（配点20点）

独自製品の企画、開発に導入・活用されたノウハウと技術の保護について、A社の特許戦略上の意図を分析する能力を問う問題である。

第3問（配点20点）

中小企業の多くにみられる創業家一族経営が事業に及ぼす影響を踏まえ、A社にとって所有と経営の分離がどのようなメリットとデメリットをもつかについて、基本的理解力を問う問題である。

第4問（配点20点）

一定の成長を確保しているA社が継続的に成長していく組織能力を維持・強化していくための組織管理上の施策について、助言能力を問う問題である。

以上

平成 23 年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅱ」の出題の趣旨

第 1 問（配点 10 点）

経営環境の変化の中で、B メガネがこれまでに採用してきた競争戦略のパターンと内容について、専門店の戦略構築の基本的理解力と分析力を問う問題である。

第 2 問（配点 25 点）

B メガネが M メガネ・チェーンに対抗するための新戦略について、戦略立案の構想力と分析力を問う問題である。

（設問 1）

新戦略を立案する際の基礎となる市場細分化理論を理解し、B メガネにとってふさわしいターゲットを提案する問題である。

（設問 2）

これまでに B メガネが実施してきた戦略との整合性の観点から、新戦略のメリットとデメリットを問う問題である。

第 3 問（配点 20 点）

M メガネ・チェーンに対抗するための B メガネの市場浸透戦略において、必要なプロモーション戦略を考え、B メガネにとってふさわしいプロモーション・ミックスの提案を求めることによって、マーケティング・コミュニケーションの観点からの提案力を問う問題である。

第 4 問（配点 20 点）

B メガネにとって有効なサービス・リカバリー・システムの要件の指摘と、その内容の説明を求めることによって、専門店のサービス・マーケティングの基本的理解力と分析力を問う問題である。

第 5 問（配点 25 点）

B メガネが持続的競争優位性を確立するための、組織内部に向けてのマーケティングであるインターナル・マーケティング・ミックスの具体的な手段についての説明を求めることによって、インターナル・マーケティング戦略を立案するための構想力と提案力を問う問題である。

以上

平成 23 年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅲ」の出題の趣旨

第 1 問（配点 20 点）

金属パネル加工事業、屋内用電力制御盤事業、オフィス用金属製家具事業へ至る C 社の創業からの事業変遷を把握し、生産技術面と営業面での特徴を分析する能力を問う問題である。

第 2 問（配点 20 点）

生産計画の変更が多く生じている C 社の現状を分析し、その原因を把握、改善するために検討すべき具体的対策を提示できるかについて、分析能力と問題解決能力を問う問題である。

第 3 問（配点 40 点）

（設問 1）

OEM 生産を中心に事業展開してきた C 社にとって、自社ブランド事業を拡大するために必要な営業活動のあり方を提示できるかについて、分析能力と問題解決能力を問う問題である。

（設問 2）

OEM 生産を中心に事業展開してきた C 社の現状を分析し、自社ブランド事業を成功に導くために必要な設計面および生産面での課題を分析する能力を問う問題である。

第 4 問（配点 20 点）

OEM 生産を中心に事業展開してきた C 社の現状を把握し、計画されている CAD/CAM 化のメリットを分析する能力を問う問題である。

以上

平成 23 年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅳ」の出題の趣旨

第 1 問（配点 35 点）

（設問 1）

D 社がおかれた財務状況を経営分析により明らかにする。概要に述べられた状況と財務諸表から、問題点となる財務指標を発見し、その内容と対策を適切に述べることを問う問題である。

（設問 2）

当該企業のキャッシュフローを正しく求め、そのキャッシュフローの水準となった要因について適切に述べることを問う問題である。

第 2 問（配点 15 点）

現状の生産能力を前提とした海外からの特別注文の諾否について、損益計算の変化に対する理解を問う問題である。

第 3 問（配点 25 点）

提示された損益情報をもとに、製品の採算性に対する分析手法の確認と製品ラインの見直しについて問う問題である。

第 4 問（配点 25 点）

（設問 1）

将来キャッシュフローの予測情報をもとにした新規事業案の評価と意思決定について、標準的な知識と計算能力を問う問題である。

（設問 2）

経営の柔軟性を考慮に入れた、新規事業案の評価と意思決定について問う応用的問題である。

以上